

ほかにわ

謹賀新年

理事長 志賀俊紀

新年を迎えるにあたり、「世界の平和を訴えたい」この言葉はあらゆる人の願いであろう。ウクライナ侵攻は将に悲劇と不幸の連鎖である。そして戦争の裏で障碍者たちの人権は守られていないのだろうかと心が暗くなる。将に世界は分断され、冷戦時代に戻った。かつて、米国のレーガンと旧ソ連のゴルバチョフが勇気ある決断で、両国の英知を絞りだした瞬間だ。分断を超えて人類の幸福に寄与した流れになった。私はドイツの東西の壁が依然とあった時代と崩壊された時の風

発行所：ほかにわ共和国
発行責任者：志賀俊紀
編集責任者：ほかにわ広報部



最優秀賞 石川智弘君 絵画作品

を記憶している。チャーリーポイントから東ドイツへ入国した緊張は今でも脳裏に焼き付いている。ベルリンの壁の崩壊の逸話は、89年9月5日、東ドイツの若人を中心に国外旅行の自由化を訴えたデモがベルリンの壁の崩壊の発端だ。解放運動に尽力したのはその後女性首相メルケルである。当時、社会主義国家は、国外旅行を市民に禁止していた。当然、知的障害者にとっては夢のまた夢の環境にあった。それはまだ、ドイツにあつては、ナチスによって知的障害者の虐殺が歴史的に検証されていない背景があった。しかし、福祉関係議員団を東ドイツで表敬訪問の時に、藤倉学園施設長川田仁子(故人医師)さんが医学誌の統計上の異変を指摘された。当局は騒然としたが、約一時間後調査結果が示された。私はその時、公式の発表でまだ東ドイツでは謎の部分があると感じた瞬間であった。

こうした福祉文化史を再確認すると、ウクライナ侵攻によって、知的障害者の人権などが侵害されていると思わざるを得ない。早く平和な当たり前の生活が戻ってくることを願いたい。

オンライン・ワンの対話・対応

新年を迎え恒例の新春研修会が五日に開催され、その年のキーワードを示していたが、今年は対面で行いたいの、一か月遅れた。リモートも否定はしないが、熱意が伝わらない。気合が入らない。古いのかもしれないが、学びはその人の息遣いにも関係がある。

最近歴史ものの人物背景を考察していくと、そのことが明らかになっていく。この仕事をして、五十八年になるが、福祉文化史の道を検証することになってきたが、そこには現場の息遣いが求められる。

ほかにわ共和国に分離して二十年を迎える。八雲寮は文化的実践が理念の一つであった。海外の施設との交流などは先駆的な取り組みだった。そこには良好な対話とそれなりの対応があった。今年はその視点で検証したい。

開所十年を迎えて...

新しい年を迎え、年末年始にコロナウイルスが感染拡大し、ほかにわ共和国にも舞い込んできました。そんな中でグループホーム八雲寮(千代垣荘)では今年の元旦も利用者さん七名顔を合わせ新年の抱負と共に手作りのおせち料理を頂きました。

千代垣荘はグループホームとなり、十年が経ちました。清水基金より助成を頂き、体育館として建設されました。四十年前、別府大分マラソン出場に当たり選手の合宿場所となり、他成人式や集いの場でもあり、その後は作業所として、生産活動へ取り組みました。平成二十四年に再度清水基金より助成を頂き、今のグループホームへリノベーションされました。当初四名の入居から十年に渡り、地域移行へが六十五歳問題にて入退居がありながら、十二名の利用者の方が利用され、現在七名の利用者さんが生活をされています。地域の住民のひとりとして、私たちが利用者さん保護者の方の思いを大切に安心された生活ができるようこれからも携わらせて頂きます。

(千代垣荘 管理者 井村一美)



ほかにわ共和国神社前にて撮影 感染対策のため幹部職員のみ

「家族の思い」

還暦を過ぎた息子ですが、ここ数年コロナに振り回されて時が流れ、ついつい年々の行事が忘れられたいさらいがあります。

我が家も息子の還暦の祝いがおざなりになったという思いがあります。年をとると、時の流れに身を任せるのが楽だということもありますが、息子が八雲寮に入所して四十年を越える年月が過ぎました。入所当時、寝つきが悪く当直の先生に大変ご苦労をかけたことも思い出されます。先の一時帰省の際、写真を見ると穏やかな顔つきになっており、家でもゆつたりと過ごし、成長したなと喜んでおります。

今後ともお手数をかけると思いますが、宜しくお願ひ致します。

(八雲寮 岩崎さん 父より)

特集

文化・芸術活動への取り組み

障害者施設の文化・芸術活動の実践例としてデイ雲のヘルマンハーブの活動を取り上げてみました



ほかにわ共和国の動き

- 2月 職員研修会・QC活動発表会
 - 3月 理事会
 - 4月 辞令交付式
- ※中止・延期になる場合があります。



障害者芸術祭に参加しました

障害者の文化・芸術活動の振興、社会参加の促進を図り、障害者福祉に対する県民の理解を広げる目的で、毎年開催されている芸術祭が、12月4日にありえコレジオホールで開催されデイ雲がヘルマンハーブの演奏で参加しました。

大きな舞台が久しぶりの方や、初めてのステージ演奏を経験する方と、それぞれが色んな緊張感の中ステージに立ちました。3曲を披露し、ハーブの澄んだ音色が会場いっぱいに響くのを感じ、練習の成果と達成感を感じることが出来ました。多くの方にハーブの魅力を伝えることができた芸術祭でした。

濱田由佳

ヘルマンハーブとの関わりを振り返って

私がデイ雲の職員となり一年半が経ちます。木工班で作業活動を支援している他、利用者の方と共に取り組んでいる文化活動の中に、ヘルマンハーブがあります。最初の頃は利用者の方となかなか合わせられずに、苦戦していました。ただ一ヶ月、二ヶ月と練習をしていく中で、少しずつ合わせられるようになってきました。そして昨年の12月4日の障害者芸術祭では利用者の方と一緒に参加し、利用者の方にとってはもちろん、私にとっても大変よい経験になりました。これからもデイ雲のみなさんと一日一日楽しく過ごせる様、努力していきたいと思えます。

小笹友幸

ヘルマンハーブはドイツのヘルマン・フュー氏がダウン症の息子の為に、「メロディーを自分で演奏することのできる楽器を与えてあげたい」と開発した楽器です。私達デイ雲は平成二十二年にこのヘルマンハーブと出会い、十二年に渡り演奏を続けてきました。これまで加津佐

いきました。

光長 まゆみ

光長 まゆみ

町の総合文化祭や老人福祉施設への慰問、県内外様々なイベントに参加してきました。この三年間はコロナ禍の為、イベント事も中止となり、施設の活動発表会での演奏のみとなりましたが、活動時、利用者の方々は真剣に練習に取り組みれています。職員も含めて九名で演奏する中で、一番

難しい所は音符の長さを周りの音に合わせられる様になる事です。単独では上手に弾くことが出来ても、音符の長さを全員で合わせる事は、何よりも難しいのですが、きれいに演奏が出来た時の利用者の方のうれしそうな顔はとても素晴らしいです。今後はアニメソングも取り入れ、イベントに参加できる様、一生懸命練習していきます。

老人福祉施設の文化活動

長野・川上先生を訪ねて

晩秋の上田城を訪ねたが、鮮やか色の楓の林は圧巻だった。上田と言えば真田一族であるが教育・福祉の分野から多くの逸材が顕出されている。私の知っている人では、老人福祉の分野で訪問介護の道を開拓された住吉寮の竹内保吉先生である。先生は全社協傘下の福祉施設士会の長野県の会長で交流を持ったことがある。その次の会長が今回訪問した博仁会桜荘理事長川上淑江先生である。川上先生は若い時から油絵を書かれていて、その文化的実践が老人の絵画指導に表れていた。施設内には先生の作品が並び、利用者の作品も展示されていて、福祉施設の文化活動に触れることができた。有り難いめぐり逢いであった。

志賀 俊紀



売りたいか。なう@



デイ雲手織り班のさをり織を使用した小物トレーと蓋付小物BOXです。口之津港フェリー一乗り場売店で販売しています。

デイ雲 手織り班

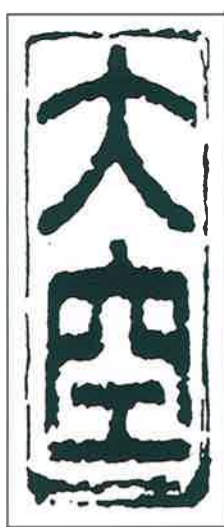
マイブーム マイコレクション

最近のマイブームはアニメワンピースです。知人のおすすめで漫画本を読んだのがきっかけでした。今では中学生の息子もはまってしまい、休みになると息子と一緒にDVD鑑賞をしながら、ワンピースの話で盛り上がっています。

作者の尾田栄一郎さんは熊本出身で、熊本地震後に復興を祈り、キャラクターの金の銅像が熊本各地に設置されました。ここ数年はコロナ禍でなかなか行けませんが、熊本の実家に帰るたびに銅像巡りをするのが私の楽しみです。

ワークネットやはた 林田まゆみ





障害者支援施設 八雲寮広報部



家族との再会



新型コロナウイルスが流行し、令和四年度の帰省もGW・お盆は中止となってしまいました。行動規制が緩和されてきている現状ではありますが、感染者が増加傾向になるとどうしても中止せざるを得ない状況となっています。しかし、利用者の方々には「帰省したい」、ご家族の方々も「会いたい」というニーズがあります。新しい生活様式を考へながら、どういふ対策を講じれば帰省が出来るかを検討しました。帰省時に感染対策は、ご家族の協力も必要となつてきます。可能な限りの人込みを避けた外出や体調管理の協力を頂きながら、帰省後の抗原検査の実施等の対策を取り、昨年同様年末の人の動く時期をずらし、十二月の帰省を実施しました。

約半分の利用者の方々が、今回の帰省で家族のもとに帰られています。帰省当日は雪が降る天候ではありましたが、無事家族のもとへ送迎することができました。

この日お待ち望んでいた利用者の方々は、家族との再会に笑顔がこぼれている表情が見られた時に「帰省をしてみてください」と心から思

家族との写真(嶋原さん親子)



家族との写真(嶋原さん親子)

トピックス!!



今年の夏頃、職員の娘さんが市役所で働いているのがきっかけで、「びっくり箱をふるさと納税の返礼品として登録してみては？」との話を頂き、秋の便より返礼品として登録しました。2か月ほどの期間限定ではありますが、約1か月程すると...北九州市より1軒のご注文を頂きました。

まだまだ、返礼品としての認知度は高くはありませんが、今年の6月の春の便も登録しようと考えております。皆様もふるさと納税制度を活用して、お得に色々なものを全国より取り寄せてみてはどうでしょうか？

(副主事 中村 要平)

先日挑戦したことは、電卓を持って、一人で買い物すること。今まで自信がなかったようですが、分からないことは店員さんに尋ねたりと、コミュニケーションも照れることなく出来るようになってきました。できることが増えてくると、やる気と自信がついてきたようで、日記に頑張ることを書くようになりました。新年の抱負を書き、決意も新たに早熊さんの二〇二三年が始まります。早熊さん、年男の年です。私達も早熊さんを叱咤激励しながら、自立をサポートできたと思います。(中島可奈)



日記を書いている様子

(総務主事 福田亮)

千代垣荘に入所され、四年になる早熊さん。日中はワークネットやはたへ通勤し、被服の仕事に頑張っています。日々の楽しみは、ビーズ作り、日記を書くこと、最近では漢字の勉強も始めました。

自立への道のり



八雲寮に彩りを...

工芸班の活動の一環として、花壇に花苗の植え付けを行っています。冬の花の代表のパンジー、ノースポール、キンセンカの3種類を植えました。利用者の方々に水やりなどの手入れを手伝ってもらい、少しずつ花が咲き始めました。冬の花は春まで楽しめるので、利用者の方々と一緒に手入れを頑張っています。(松島由羽)



がんばらんば宣言

今回ご紹介するのは・・・?

城山勇次さん



顔拭きタオル干し、畳みを頑張っています!

入所日 昭和61年4月1日

じゃがいも雑感!



私は平成十六年度に入社し八雲寮を三年半勤務した後、法人内の各事業所を経験し、今年度、約十五年ぶりに八雲寮へ戻ってきました。当時からすると、利用者の方々の高齢化や制度の移り変わりもあり、私が知っている八雲寮に比べて様々な変化も見られました。利用者の方々の求めているものは変わりなく、どのようにしたら日々の生活を楽しく、安全に過ごしてもらうことが出来るのかということに日々考えています。皆さんが最高の笑顔で過ごせるよう伝統を残しつつ、工夫しながら支援に当たりたいと思います。(総務主事 福田亮)

にゅーどじよも

1月号 No.208



笑顔あふれる年末・年始

大盛況の忘年会



利用者忘年会が十二月十六日に昨年度と同じ割烹城で開催されました。行事が決定してから余興について、どんな料理が出るのか、何を着ていくか等々気持ちは日々高まるばかり。早く寿司や刺身が食べたい、海老や肉もあるね!と話が盛り上がっていました。

ガネ外し、安来節でのどじょうすくい、職員によるマツケンサンバと全員参加の出し物であり、令和四年の最後にみんなで楽しく過ごすことができました。

田栗ひろ子

福笑いで笑い初め

近年では双六や羽根つきと同様に少しずつ忘れられた遊びになっている福笑いを楽しいものにしようと、職員の顔でパーツを作って正月遊びを行いました。

誰だか分からない変な顔や良い男と出来上がった顔を見て各グループ皆さんの笑い声がいっぱいでした。今年一年笑いの絶えないデイ雲を目指して行きたいと思います。

吉田久子

七月から利用を開始された植松俊樹さんです。雲仙の自宅から毎日通所されています。花・野菜班での作業を頑張っています。



大盛況の忘年会で令和四年も終了

当日になり、会場では期待どおりのお料理が振る舞われ利用者の方々の満足な表情と、笑顔が沢山ありました。余興は手作りの楽器での演奏、可愛いお面をかぶったのジングルベル演奏、変顔でのメ



今年も一年よいことがありますように...

新年が始まり、一月六日は初詣外出の日です。当初の予定では外出を予定しておりましたが新型コロナウイルス感染拡大中でもあり参拝先を法人内の権田八幡神社へ変更しました。一人一人神前に立ち、自分の願いを祈願されました。今年も利用者の方々と一緒に楽しく過ごせます様に。

光長まゆみ

心を込めた年賀状

年賀状を出す習慣が年々縮小していますが、利用者の皆さんは法人内の手作りハガキに手書きで賀状を書いています。新年に開催される年賀抽選会も皆さんの楽しみのひとつです。

小山泰彦



活動発表会に向けて

今年度も2月に一年間の集大成である活動発表会が予定されております。文化活動として毎週一度は練習の時間が設けてあり、利用者さんにとっても余暇の活動でもあり楽しみとされています。

今年度はヘルマンハーブが久しぶりに外部へ演奏に行く事が出来ました。他のトーンチャイム、フラダンスの2つはこの場が練習の成果を披露する機会となります。またオペレッタは配役の利用者さんですが、私達職員も練習を積み成果を皆さんに楽しんで頂けると思います。乞うご期待下さい。

高松 豊



行事予定

2・3月

- 合同年祝い
- 節分
- 活動発表会

※状況により延期・中止になる場合があります。

雲と虹



昨年を一言で表すと変化の年であったように感じます。物価高騰、環境の変化など社会情勢が目まぐるしく変わり、生活に不安を感じられた人々が多かったのではなかったでしょうか。また、一旦落ち着いていた新型コロナウイルスも年末には再び増加傾向となり、デイ雲でも感染予防と対策を徹底していましたが、複数の方が感染され数日間営業停止の状況となりご家族様には大変ご迷惑とご心配をおかけしました。現在では感染も落ち着き通常の状態運営ができております。

今後は色々なケースを想定し対応できる様に点での支援ではなく、面で支え合えるよう職員一同頑張っています。新しい年を迎え、二〇二三年が皆様にとって飛躍の年になりますようお願い申し上げます。

総務主事 中村 久人

悠炉里

みんなと一丸となる年を目指して

悠炉里 施設長 志賀常盤

共同生活援助事業所

(介護サービス包括型)

悠炉里広報誌



おみくじで運だめし

1月号



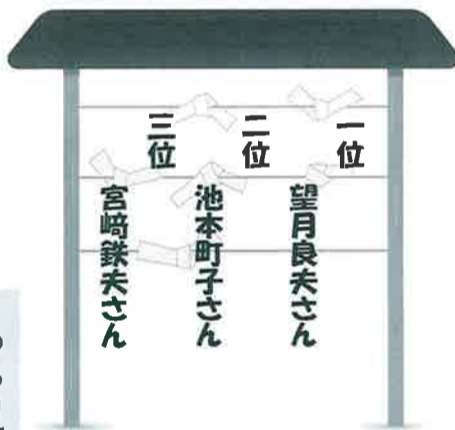
新しい年の初めには、一年の健康を祈願しに温泉神社へ！
今年運が良いであろう人ランキン
グ発表です！（おみくじ調べ）

昨年を振り返ると、例年のごとくコロナ禍における福祉サービス展開としては様々な規制のもと、利用者やご家族に対しても、十分なサービス提供とはなりませんでしたが、そんな中、サッカーワールドカップを観戦して感じたことの中に、困難な状況に置かれてもあきらめない選手の気持ちや選手を信じるサポーター。そこに感動が生まれた瞬間を目の当たりにし、私たちの仕事に置き換えてみても、通ずるところがあると思います。

それは、生活を共にし利用者の喜びや生きがいを提供しようとする職員とそれに期待を寄せる利用者の姿です。互いの気持ちが一致したときに感動が生まれるものです。そして利用者の方の幸せを願うご家族の応援を受けることで私たちの気持ちに嬉しさがこみ上げてきます。

振り返りの中に反省をしつつ、新たな年に感動を提供できるようなサービスを創りたいと思います。

コロナ禍はまだまだ終息しませんが、その中でも強い意志と強い気持ちをもち続け、皆様の応援や励ましを頂ければ幸いに存じます。今年も宜しくお願い致します。



誤飲防止と若返りに…

杜垣荘では、もっと美味しくご飯を食べる為に、夕食前にはお口の体操と健康体操をしています。初めはうまくできず、みんなと一緒に合わせる事ができなかった方もいましたが、今では誰よりも張り切って“腕上げ”や「パ・タ・カ・ラ」のお口の体操を頑張っています。さあ、「いただきまーす！」
(松川未来)

ゆるり版正月遊び



昔ながらの「福笑い」、出来ました！

去年までは県内でのみの帰省でしたが、今年はやと県外も行き来できるようになりました。帰省から帰ってきたみんなも、お正月遊びで楽しみました。

多く、特に個人の名前が出ると最高に盛り上がりました。すべて職員の手作りで味があり、毎年恒例イベントとして続けたいと思います。(綾部佐吉)



長生きするぞうぞう！！



今年もいい年になりますように！「かんぱーい！」

スポットライト

ワークで被服の“たたみ”頑張っています！



門下友子さん

いつも、誰にでも優しく話してくれる友子さん。ワークネットやはたで被服の仕事毎日頑張られています！

(谷口富美代)

目隠しをして、目と鼻と口のパーツを顔の台紙にのせていく「福笑い」、ゆがんだ顔が出来上がったたり、女の子の目を使って、ひよつとこを作った方もいて、みんな大笑いです。職員が文を考えた「かるた」は悠炉里にちなんだ文章で笑いを誘うものが



手作り「かるた」、取るぞー！！

NEW FACE



生活支援員：加藤信行

みんなの名前を憶えて、この仕事を頑張りたいです。

今後の予定

- ◎悠炉里自治会歳祝い
- ◎ホーム活動

「ゆるりらう」

別れと出会い

先日、十三年一緒に居た彼女との別れがありました。出会った頃は本当に綺麗で素敵な彼女でした。休みには意味もなくドライブに出たものです。月日が経つにつれドライブにも行かなくなり趣味のゴルフばかりで、彼女は家で一人私の帰りを待つ日が多くなりました。体調不良を訴えることが増え、入院も三度程しました。

実は私の愛車の話です。初めて買ったオープンカー。故障も多く、外車の為修理代も高く、手放そうと何度も思いましたが、愛着がありなかなか手放すことができなかったのですが、先日とうとう売りに出しました。家の庭にいつもあったものが無いと寂しいものです。なんだか彼女に近い感じがします。機械でも家族の一員になれるものですね。

未だ予定は無いですが、次の家族(車)が今から楽しみでもあります。次はどんな車にしようかな。決まれば報告します。

副主事 生川順一

我ち愛

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌 1月号



謹んで新年のお慶びを申し上げます

ワークネットやはた 所長 原田秀範

今年こそ禍無きいい年であることを念頭においてご挨拶したいと思います。

昨年末より新型コロナウイルスの影響

なのか感染力を増して急激な感染拡大となり

当法人も避けて通れず感染者が発生し、その

管理対策に追われる状況となっております。対

人関係の業務における感染症とのウイズ的運

営活動は難を要しています。世界情勢は併せ

て、ロシア、ウクライナ戦争、北朝鮮ミサイ

ル問題、そこから端を発して、我が国の防衛

費増額に異を唱えることなく国の舵取りが決

まっているようです。限られた財政で未来の

国民生活はどう変わるのか
日本丸は何処へ向かってい
るのでしよう。

当事業所の就労活動も新
型コロナ影響により昨年度

より平均月賃額は平成二
十二年度10,309円から令和

二年度31,780円まで右肩上がりであり
増加を成してきましたが昨年度28,617

円と、また今年度はそれ以上に下降する
状況です。作業職種によるところが大き

いと考えますがコロナを含め円安の経
済状況も併合してか煽りを受けている当

該事業所の現状です。また、多機能型運
営事業の責務として就労に必要な訓練や

生活訓練等々多岐にわたって支援を実施
しているところですが未だ道半ばであり

ます。最近流行
のダイバーシテ
イ(多様性)の

考え方を学びつ
つ、地域に根差
した就労支援の

在り方を推し進
めたいと考えて
いるところでは



鬼火焚きでコロナには負けじと新たな年に誓う園芸班の面々

やはた教育通信

12月5日より受け入れの許可をいただき、いよいよ開始となった実習に本人もはりきって早朝よりバス通勤しています。

介護保険事業の特定施設では、沢山の仕事が待ち受けており、メモとペンを活用して必死に仕事を覚えている姿が見受けられます。

ご利用者さん方と会話も弾ませることができるようになり、これからが期待できそうです。しっかり頑張りましょうね。

(大村圭子)



新年が始まり、コロナの感染拡大が懸念されているまっただ中、仕事始めもとくに済ませたところでお昼の時間を使ってみんなもお参り。ここ数年、ゆっくりと時間をとってお出かけることが難しくいけれど、やっぱり初詣はみんな楽しみのようでした。

遠くまで行けなかったけど、由緒ある神社に着くと、皆さん用意した賽銭を供えしっかりとお参りしていらっしやいました。素敵な一年になりますよう。

(林田まゆみ)



今年祈願してね

今年の抱負を聞かせて!

2023年を迎えるにあたり、利用者の方々に新年の意気込みについて尋ねてみました。

尋ねた方のほとんどが「自分の受け持つ作業(仕事)をもっと頑張りたい」と話してくれ、ワークネットのみなさんはやっぱり働くことが好きなんだなとつくづく思いました。

その他では「健康で一年を過ごす」の回答もありましたが、中には「歌がうまくなりたい」や「生きてる希望をもつ」などの素晴らしい意見も頂戴し、私達職員もしっかりと目標を定めることの大切さを改めて強く感じました。

みんな今年もそれぞれの目標に向かって力を合わせてがんばりましょうね。(松本智恵美)

ワークネットやはた この人

今回は 内堀留美 さんです

Q) 加津佐の住み心地はどうですか?

「落ち着いた環境だと思います」

Q) 趣味などの楽しみはなんですか?

「ピアノと編み物と大人の塗り絵 それくらいですかね」

Q) ワークネットでの活動には慣れましたか?

「だいぶ慣れてきました。でもこれからもっとたくさん工賃をもらえるようになりたいです」

● 県外から引っ越してきて、わからないことや慣れないことも多いかと思いますが、たくさん知り合いをつくって楽しい生活を送って下さいね。



散歩道

ワークネットやはたは「強く優しい職場」を業務使命として掲げています。「強い」とは、障害者総合支援法に基づく責務を果たし、社会貢献をその成果として成し遂げることです。「優しい」とは、和の集結、相手を尊重し、認め合い、協調することです。そのためには、しっかりと話し合いを行い、不満も伝えることができる環境を作ることが求められます。相手を受け入れる、尊重しあえるような職場作りを目指し、「思い」を受け止め、チームとして共に前進していきたいと思えます。

松尾 浩道



至誠通天

我が法人の理念に掲げる という意味です。

『至誠通天』は、中国の儒教 学者孟子の言葉で、「誠の心を 尽くして行動すれば、いつか は必ず天に通じ認められる」



縫製作業の専門職員雇用、 専門指導者による絵画指 導、福祉QC全国発表会での受賞等々、「いつの日に か」と念じる気持ちだけは、 何十年も持ち続けていまし た。これら一つひとつの実 現は、人との縁、職員の努

力、周りの人達の協力と理 解に、『誠の心』を持ち続け ていたことかと感じていま す。 さて、コロナ感染症は、 全国的には第八波と言われ ています。年末から通所 して陽性者が判明し、一部の 功罪を検証し、今後に活か したいと願います。(由)

祝！ 優秀賞！！

「第二十二回障害者芸術祭 作品展」で優秀賞に輝いた石川さん。元々、絵を描くことが好きでたくさん描かれてい ましたが、その才能をうまく 伸ばすお手伝いができないか と取り組みだしたのが、絵を 専門にされている田中順子先 生への講習の依頼でした。

令和五年度のカレンダー作りました



絵：石川智広さん作
【いちご】



乾杯

いい年になりますように...

今年三年ぶりにグループホーム全員で集まり、お店を利用して新年会を実施しました。

司会から挨拶までを、利用者の皆さんにして頂き、普段は見られない一面を見ることができました。

“楽しかった・・・でもお酒ば飲みたかった”と意見があったため、来年度の計画に活かしたいと思えます。

年祝い者5名の方に、記念のお守りを贈呈して、無事に会を終ることができました。(森内)



狩野さん 名司会者誕生でした♡

全国最優秀賞とったぞー



福祉QC全国発表大会に初発表で、なんと、最優秀賞に輝きました！

最後で、発表者は緊張したと思いますが、素晴らしい発表で、なんと、最優秀賞に輝きました！

「これ波これ波」の発表は一番

最後で、発表者は緊張したと思いますが、素晴らしい発表で、なんと、最優秀賞に輝きました！

(佐藤)

先生が指導日に書かれる日誌です。本人の様子や、取り組み姿勢、どの位理解してくれているかなど、イラスト入りで細かく書いてくださいます。輝く才能に今後とも期待ください！

(恵理)

リハビリ奮闘記 -その参-

リハビリ内では、関節可動域訓練も実施しています。

関節可動域訓練は、関節の動きを改善させること及び、拘縮・変形の予防を目的として行っています。四肢の関節可動域が拡大すること、日常生活動作の向上につながるため、とても大切なことなんです！

(真帆)



ひかるさん頑張れ★

現所長が、『職員にも楽しんでもらいたい』と計画したことが始まりです。昨年度から景品(職員分)の準備を私が引継ぎ、二十人を超える職員のことを考えながら選ぶのは、時間がかかりますが楽しさもありません。しかし、一人ひとりの顔を思い浮かべ、「この人はこれが喜ぶかな」「あの人はこれだな」と考えながら、たまに自分の中のいたずら心がくすぶられるのでした。(恵理)

言の葉

2月の行事

- 6日 作業班別活動※
 - 15日 弁当の日
 - 18~19日 ありえ蔵巡り
 - 22日 誕生会
- ※印は参加費あり



晩秋の上田城探訪

—長野の老人福祉に学ぶ—

上田城の由縁と紅葉を訪ねた見事な景観に感動した。そして上田の偉人にも触れてきた。探索していて、古めかしい教育会館に何げなく入ったところ、これまでの偉人たちが紹介しており、目から鱗であった。というのも、福祉施設士会長野県会長川上さんを訪ねたが、老人訪問介護の発祥の地、川上さんの前会長で故人になられた竹内吉正先生の活動の拠点でもあった。竹内前会長とは二十年近く同じ福祉施設士会の仲間、地域福祉と医療を教授していただいた

ウクライナ支援コンサート

全国で展開されているウクライナ支援コンサートが長崎でも開催される。そのプログラムに「いのりのまち」が選ばれた。高山佳子先生率いるピアノの女性たちがボランティア出演するが、自前で東京からの出演だ。



同窓会に出席先輩後輩の絆

茨魂会と三八会の同窓会に参加したが、祭りの関係で三八会のメンバーとの交流会に参加した。学長も参加していただき将来の茨城大学を示唆していただいた。中でも農学部キャンパスは人気があり科学農学研究に進化するようである。私が専攻していた育種などは先進技術の学問として人気があるようだ。放射線育種学の一期生としてうれしい限りだ。

今年で、故島津齋徳先生の一月十四日で五十五年祭にあたる。鹿児島の白鳩会中村隆重名誉会長から旧友を温めたいという招待状がきた。老人と寄り添った優しい眼差しは印象的だった。実践者としての業績は活動されたその地に行けば実感できた。鍵は現場にあるという事の一つの事例であろう。

思い起こせば、三十九年前の夏の日、記念像の前で十歳前後の子どもたちが献歌された曲だ。この歌の誕生は、早稲田大学のポニージャックスがご縁で日中友好十周年記念に東京の少年少女合唱団が招待された。長崎大水害の翌々日空港に到着された一行四名を野母半島の上海宮の宿泊所を訪ねたことが思い出される。

多摩ファミリーシンガーズの上海公演は大成功であったと。高山先生はお礼の長崎訪問を翌年計画したい意向を伝えられた。私は長崎を訪問するのであれば、長崎の平和の歌を歌ってほしいという注文を付けました。それに応えて、「いのりのまち」が誕生し、記念像に献歌されました。詩に曲が付くとその感動は何倍もの力になる。

今回は、島津家の奥津城を訪ねることにした。故島津先生は島津家十四代成重公の四男にあられ、NHK大河ドラマの篤姫とは親族で皇族にあられる。先生は55年前の一月十四日に49歳で他界された。私は成人式のお祝いに上京していた矢先のことだった。日程を伸ばし、青山葬儀場で神道の葬式だった。昭和天皇からの献花があり厳かであった。あれから一度もお参りしていなかったが、今回偶然にも55年祭である。自宅の榊の枝を持参して参詣する。

先生の業績は、奈良農業試験場ではスイカの種なし、イチゴの品種改良、アサガオ研究では世界的な業績を上げられた。先生のスマートさは、阿見役場に車が一台入ったところ、いすゞベレットモスグリーンのツースートの車の姿は思い出深い。しっかりと参詣してこれまでの自分を報告したい。



右の写真は、雑誌社のプロカメラマン神尾哲雄氏によるものだが、氏は現在沖縄県本部の自然の中で心理相談の仕事をしておられる。早速一月十二日携帯電話で連絡を取ったが、出合いの素晴らしさと事実の確認が写真できた喜びを感謝されていた。思えば雪ん子ツアーなどのカメラマングループとの出会いからだった。

口加ライオンズクラブ弁論大会

ライオンズがクラブが口之津加津佐地区に結成されて四十年になる。弁論大会は当初からの事業で全国的にもユニークな青少年活動である。



これまでコロナ禍で二回休んだが三十七回を数える歴史を刻んだ。今回は私のミニ講演を二十分入れていただいたので、「島原半島南西部百年の大変」というタイトルでパール・バックと津波の由縁を話しました。次を担うふるさとのお宝たちに身近な歴史を知っていただきました。

いのりのまち

歴史に残る 過ちの光

戦いの怒りと悲しみ 石碑は語る
浦上の丘に 人の世の終わりと虚しさを
水を求め 家を求め 彷徨う人の群れ
死に絶えた 幼児に 焼けた敷石
咲く露草 あゝ 長崎 祈りのまち
忘れはしない あの夏の日射し
時計は十一時二分を指したまま
永遠に時刻を止めた そして瓦礫と消えた祈りの館 思いは今もめぐる
新たに誓う 二度とないように
平和の丘に大空に 許してはいけない
ノーモア長崎 語り継ごう被爆の声を
希望求め 愛を求め 生命続く限り
いま届け世界に 平和の歌の 永久にあゝ 長崎 祈りのまち
あゝ 長崎 祈りのまち
あゝ 長崎 祈りのまち
あゝ